

手紙の巻

十

達 13
1926
2止



門 遠 13
1926
巻 2 止



志み乃をこの物送下目録

家司壹升不結果をとりむとす奉

陪従春近下部小雪佛張作らる奉

價二百あせふ柑子乃奉

大進有恒々素高王の廳よりりきふ奉

餅を買く控子を拾上男乃奉

乳を多くてあそぶ翁乃奉

紀直方兄弟乃子を論ず奉

官司や法師鬪諍ふおと奉

桶工暴風をくらふ事
 家乞く成る男を妻いさむ事
 文字志ぬ男中家をた事
 大老所弟子をある事
 戀や志給姫君の事
 人宿志く物と母とをふ女事
 越前守うね水化花をある事
 未央官丸瓦硯重寶とす事

小面実持人をやふ事
 貧人従者張屋けいし事
 椿市の宿り事
 琵琶法師夕立に逢事
 竹垣をくらふ首出ざわし男事
 袴着れ姫君をいさむ乳母事
 学を源の廣が家のより事
 檢非違使のち目とふ事
 茶入道のつらと柳をまわす事

同童おらこ葉はふつくとわらわら奉
丹後國の痴人おろち報り官くわんふりまら奉

○あるときまらにあり地けいしありなることより奉公
せしものなりとて何れをやらはくは終ひなるある時
かく乃結果あわをむ掠れたふはくせす奉つまよひきて
そこありはあまありこのはくをうらふよりまらに
まらにものふくははくをうらふたふふてくらは
手てさういふくげらせむくまひまらぬらうふつあ
ぬふものありぬらうさうくしかつまらまらばうの
けいしやいでまらなるせはせおりまらふがかの
はくをいひてまら行ひてよりいひまらまら人の終ふ
まらまらづくゆがはくをうらふまらまらまらまら
まらまらぬらうまらまらまらまらまらまらまら

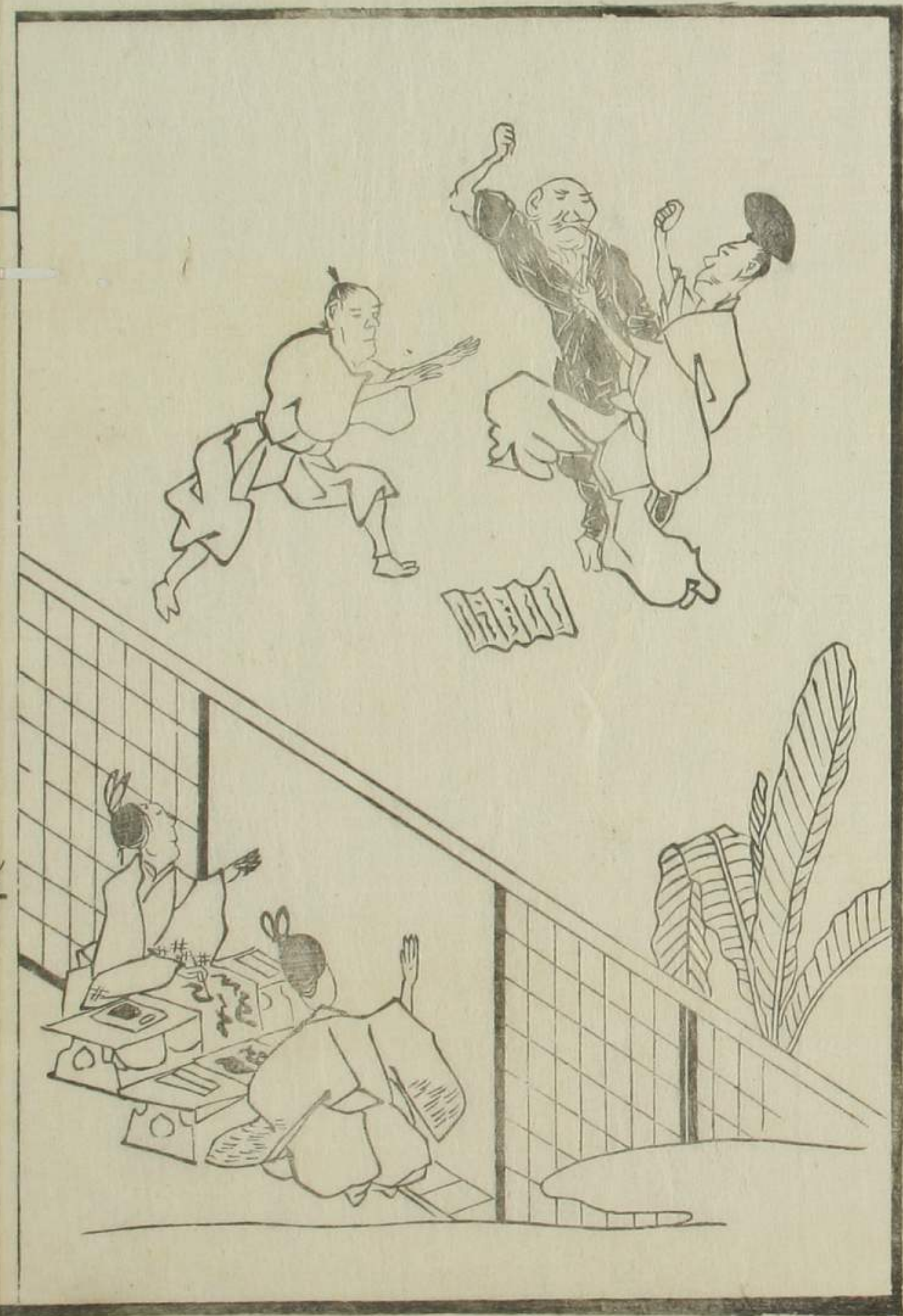
ぬおえざるはれは、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
ろきめ、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
さめく志あり人ともふつおぬあまのたれさきものともすやそて
あしに、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
鉄てつの如き心こころなりて、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
あまのたれさきものともすやそて老人ちひお
此あり二十四ばつらつ、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
は、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
きえせけいし、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
は、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお

○ 陪從はいどう春遊しゆんゆうとのひけるもの、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお

みつらう、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
をかき、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
よぶて、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
は、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
つらう、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
あまのたれさきものともすやそて老人ちひお
は、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
ふつ、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
を、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお
を、あまのあまのたれさきものともすやそて老人ちひお

新小官司ゆくえせうこ
なぞし者あり分るしは法師がしひおけるふき
りり起てやふかに桶とふ文字れふが起ふり乃
をふくをけせりふきとてくま目あざしし
沸たぎつ小がん那のほりひざらをもぶし
みや桶をたのむをもちひかなるひく但小桶を
いんともあつらふり乃をもち用ひかくぬるふのりん
見くまはぬこ乃桶をわいけけとあそく起行ふれ
きしとふその道ありえたるふは坊えれどふ國
の事いづやうとておりにあふは法師をま
よりきふ心寺ふおをもちてつこれよしけりけさ

人ありなまはけりてこまきさうにあやうなる
けぬし順めしまじ和名抄をもちやちまうしを平計と
く起てありし法師をまはま能持はほめてうまはれは
起がふれずともふりきとふ小桶の対ふのをも
けしめやあうなるくあやうまきとてあし人
心地はまきとてふま目もまめいりてまきとて
まきとて僧は奉よむをもちあうよのふまは其ありあう
く起て人まきとてまきとてあうをくしをまよるもの
あう人起りありとてまきとてあうとてまきとて
いふはけりなまは法師もまきとてあう念珠
もてまきとてまきとてあうけまきとてまきとて
あう

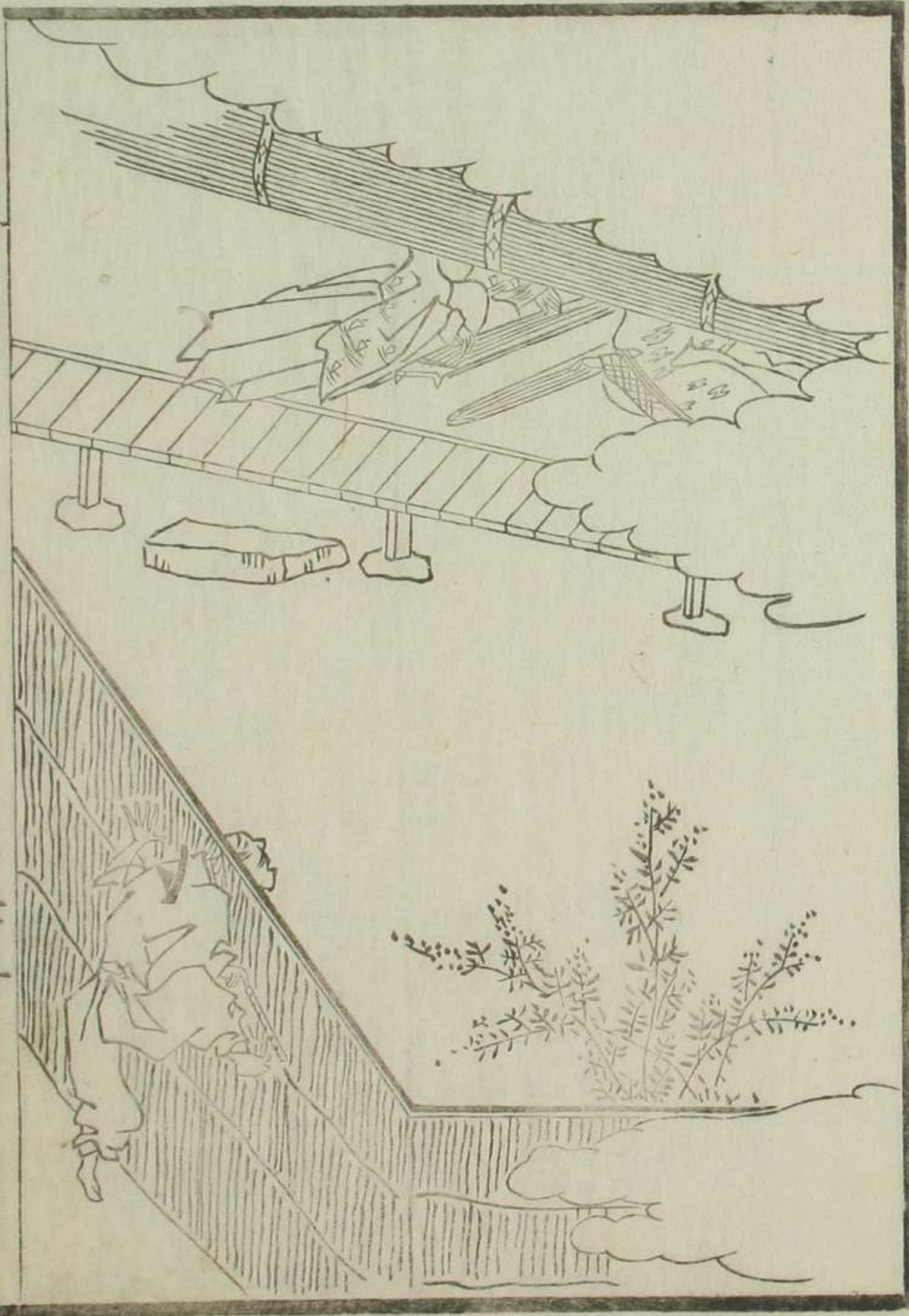


をあがて法師がけりてはさへけりあふらけりきき
 せしてふ下にさめてどりあひまるとしつらなき
 三つあていおとけをむむまをかつにけら
 てうもひく法師もま目もかたうらをいさず大
 なる柑子うちつあきうきうにまきあがるぬされ
 ぐるむむきなるねいふもあ終る日のゆま
 あつふのころあ知めやすしとていまを念
 じてあつし文もちて廳よめ守大いなるも
 らもうま目もたまよあつさあつをもちいさ
 まりて神あはううする道も法師を柔
 和をて人をさうむお後乃世のふまとも知らす

ていついなるにあまりに身おぼしめしむるに
月花のさうりありおぼしめしむるに
ゆるりねあはるるに
いそゆへに子なるもて起りて
目のてりえをくはしむるに
まはしめしむるに
てそふち福者なるに
らあはして
ふらぎあはるるに
うちたを

人乃一人をとりけしむるに
しそうちなるに
よふか
ゆへに
めらひ
ふらぎ
目数
いそゆへ
まはしめしむるに
らあはして
ふらぎあはるるに
うちたを

さ地ぞるまにちわて大地よ育し。志海に海より大なるこ
 ちよよて空をわうこゝちああげく。いんをさふれ。あれ
 ー。そが。海もさう。めく。わし。さ。り。あふ。う。ち。あ
 し。そ。う。せ。い。づ。お。も。あ。さ。る。む。と。我。よ。ば。け。け。あ。あ。ら
 じ。づ。こ。ぬ。る。ま。の。き。あ。る。た。じ。お。ま。り。を。と。い。い。た。わ。
 え。せ。さ。う。し。か。後。中。り。里。の。か。い。さ。ふ。あ。ふ。人。の。あ。ふ。横。笛。の
 ありける。我。も。わ。て。う。う。ふ。と。い。と。う。れ。お。よ。し。を。さ。ら。よ。あ
 い。さ。ら。わ。ぬ。う。む。と。す。れ。ど。ぬ。も。は。は。よ。く。か。ん。む。指。い。き。て。
 き。ん。ぐ。う。ら。い。な。れ。づ。い。の。笛。も。あ。つ。て。い。ま。の。り。て。價。を。あ。ら。い。
 家。ふ。か。い。舞。ば。ふ。え。う。ち。さ。づ。ぬ。く。と。ら。さ。う。と。な。り。て。指
 下。は。あ。る。笛。ま。れ。づ。う。ち。ち。わ。て。あ。い。さ。り。ら。る。る。ふ。

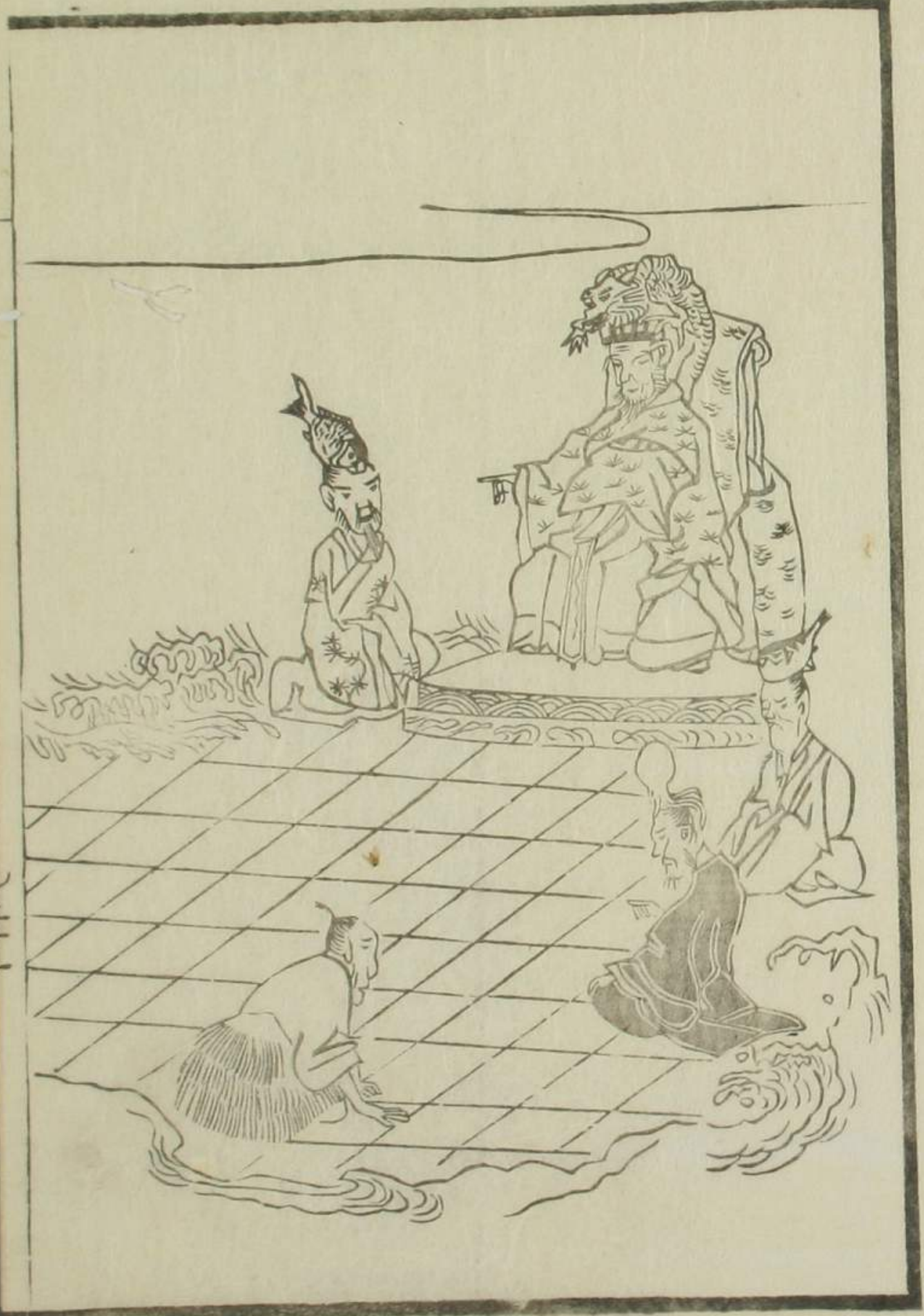


竹垣志はめきふ女ありてたくて現う乃志のし事ハ
ゆるくそがゆせんともろもがね也。もろりて竹垣
のすまひにふあるともろ現うつあて。さうでふおけけら
さういきて見れば、うのんま花きううるふさ現にきききてよく
刃之ねぞすれもさうさうくも現あまて女口み人
飛るもぢに奉ふりあひさうちうひねぞする現めえ
んれさすのねふてあるふおけけらもろし人のいぞまて何
ださうつあまゆきますれおろしてさあいあぬい
あぶらましく入ふたうねと無くてかいらさうとおまいて
くじいぞいぞいふめをさす。ちあねがらふさうま入
まろ。さうでふ竹をおし。ああむるまけるゆきあやな縄つよ

志まうりてぬさす。さわものやまげまはいよはげく志すわて
いふそのやまきさびあけらりにあぬさうさふさうゆさう
め現にまはあまらぐし竹垣乃志ふ人の工志するあま
とてちうづまよるをさす。あのみささひえをる智う志ていふ
たのまけらまじれふらうたうびもいぞうひをふよと
あひてまららなまらさう。

○むろ志まうりて現娘君おろし市の伊裳着志のようあひ乃
目とて女房をさう持て現あへしめのものもあなる人娘あふ
むろいひあうせく。ねまをさめさせ行してハ。あのみさうで
とさすいさうさうめまじらうおけけらさうまらう。こらねせ
まらういおらまらう現娘ねまてさうさう。あう。あうはりあま

出てきたらまいある蛇なるのうをう残してあまきや新ま
 のあかいらよそ甲乃うふれり川のさかかふくふらあき
 りるれ男をうけまばめをわらふうをれておけ死なる
 とおふらまはさきことありすかふうさふ物ささ
 まいありさあふあるかあてやうなる女いでさくわれを
 新まのほしぬまいさきまらへといばうまきあくいば
 してゆつたしちやうかかやあるとまの女を蛇まら
 たらあめまらして沖乃うう残してあゆしをうあえつ
 とてあがてのうまてりなわさて龍まあつらうと龍乃
 沖前まのうしてまきまいさあはなまのうくゆりな
 りこまますめるむらでぬるまもあましくおあしてまの



志之すみ物下終

此書五老石川子所著也奈嘗
在東都時借鈔某家須日書
肆東屏堂乞上梓之乃校正
以與之
甲子孟春 尾張 朝田保清識

文化第二乙丑春開彫

大坂唐物町

河内屋太助

江戸山下町

萬屋太次右衛門

尾府玉屋町

永樂屋東四郎梓

書肆

